



付録

- [Cisco HyperFlex ノードの設置 \(1 ページ\)](#)
- [ファブリック インターコネクトの設定 \(2 ページ\)](#)
- [WinSCP を使用してインストーラ VM に iso と img ファイルをアップロードするには \(6 ページ\)](#)
- [DNS レコード \(8 ページ\)](#)
- [HX サービス アカウント パスワードの更新 \(9 ページ\)](#)

Cisco HyperFlex ノードの設置

HyperFlex クラスタとノードの制限の詳細については、[Cisco HX データ プラットフォームのリリース ノート](#)の最新バージョンで、[Cisco HX データ プラットフォーム ストレージ クラスタ仕様](#)を参照してください。

Cisco HyperFlex ノードのインストールの詳細については、次の表からそれぞれのリンクを参照してください。

インストール先のノードのタイプ	参照先
コンバージドノード	
HyperFlex HX220c M5 ノード	Cisco HyperFlex HX220c M5 ノードインストールガイド
HyperFlex HX240c M5 ノード	Cisco HyperFlex HX240c M5 ノードインストールガイド



重要 コンピューティング専用ノードは、3.0(1a) の Hyper-V ではサポートされていません

ファブリック インターコネクタの設定

高度な可用性をもたらすため、ファブリック インターコネクタの冗長ペアを設定します。L1 または L2 の高可用性ポート間で、イーサネットケーブルを使用して直接2つのファブリック インターコネクタに接続します。ファブリック インターコネクタ A のポート L1 はファブリック インターコネクタ B のポート L1 に接続し、ファブリック インターコネクタ A のポート L2 はファブリック インターコネクタ B のポート L2 に接続します。これにより、両方の FI がお互いのステータスを継続的にモニタできます。

ファブリック インターコネクタを接続する前に、次の情報を確認して入手してください。

項目	説明
ファブリック インターコネクタの物理的な接続の確認。	<ul style="list-style-type: none"> • 第1のファブリック インターコネクタのコンソールポートが、コンピュータまたはコンソールサーバに物理的に接続されている必要があります。 • 管理イーサネットポート (mgmt0) が外部のハブ、スイッチ、またはルータに接続されている必要があります。 • 両方のファブリック インターコネクタの L1 ポートが互いに直接接続されている必要があります。 • 両方のファブリック インターコネクタの L2 ポートが互いに直接接続されている必要があります。
コンピュータ端末でのコンソールポートパラメータの確認。	<ul style="list-style-type: none"> • 9600 ボー • 8 データ ビット • パリティなし • 1 ストップ ビット
初期設定の情報の取得。	<p>初期設定に関する次の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システム名 • admin アカウントのパスワード • 3つの静的 IP アドレス • 3つの静的 IP アドレスのサブネットマスク • デフォルト ゲートウェイの IP アドレス • DNS サーバの IP アドレス。 • システムのドメイン名

両方のファブリック インターコネクタで、同じセットアッププロセスを実施する必要があります。プライマリ ファブリック インターコネクタをセットアップし、クラスタ設定を有効にします。同じプロセスを使用してセカンダリ ファブリック インターコネクタを設定すると、最初のファブリック インターコネクタがピアとして検出されます。

GUIによるプライマリ ファブリック インターコネクタの設定

プライマリ ファブリック インターコネクタを設定するための下記の手順に従うか、「[Cisco UCS Manager Initial Setup part 1](#)」をご覧ください。



注目 IPv4 アドレスは、hyperflex に必要です。

手順

- ステップ 1** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。
ファブリック インターコネクタが起動すると、電源投入時セルフテストのメッセージが表示されます。
- ステップ 2** システムがリリースを取得したら、手順6に進みます。それ以外の場合は次の手順に進みます。
- ステップ 3** コンソール ポートに接続します。
- ステップ 4** インストール方式プロンプトに **gui** と入力します。
- ステップ 5** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。
- ファブリック インターコネクタの管理ポートの Ipv4 アドレス。
 - ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの Ipv4 サブネット マスク。
 - ファブリック インターコネクタに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレス。
- ステップ 6** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに移動します。
- ステップ 7** Cisco UCS Manager GUI 起動ページで [Express Setup] を選択します。
- ステップ 8** [Express Setup] ページで [Initial Setup] を選択し、[Submit] をクリックします。
- ステップ 9** [Cluster and Fabric Setup] 領域で、以下の操作を行います。
- a) [Enable Clustering] オプションをクリックします。
 - b) [Fabric Setup] オプションに対して [Fabric A] を選択します。
 - c) [クラスタ IP アドレス] フィールドに、Cisco UCS Manager で使用する IPv4 アドレス アドレスを入力します。
- ステップ 10** [System Setup] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[System Name] フィールド	Cisco UCS ドメインに割り当てる名前。 スタンドアロン設定では、システム名に「-A」が追加されます。クラスタ設定では、ファブリック A に割り当てられたファブリック インターコネクトに「-A」が、ファブリック B に割り当てられたファブリック インターコネクトに「-B」が追加されます。
[Admin Password] フィールド	ファブリック インターコネクト上の Admin アカウントに使用されるパスワード。 Cisco UCS Manager のパスワードのガイドラインに適合する強力なパスワードを選択します。このパスワードは空にできません。
[Confirm Admin Password] フィールド	ファブリック インターコネクト上の Admin アカウントに使用されるパスワード。
[Mgmt IP Address] フィールド	ファブリック インターコネクト上の管理ポートの IPv4 アドレス。
[Mgmt IP Netmask] フィールドまたは [Mgmt IP Prefix] フィールド	ファブリック インターコネクトの管理ポートの IPv4 サブネット マスク プレフィクス。 (注) [Mgmt IP Address] フィールドに入力したアドレスタイプに基づいて、システムから [Mgmt IP Netmask] または [Mgmt IP Prefix] への入力が必要とされます。
[Default Gateway] フィールド	ファブリック インターコネクト上の管理ポートに割り当てられるデフォルト ゲートウェイ IPv4 アドレス。 (注) [Mgmt IP Address] フィールドに入力したアドレスタイプに基づいて、システムから [Default Gateway] アドレスタイプへの入力が必要とされます。
[DNS Server IP] フィールド	ファブリック インターコネクトに割り当てられる DNS サーバ IPv4 アドレス。
[Domain Name] フィールド	ファブリック インターコネクトが存在するドメインの名前。

- ステップ 11** [Submit] をクリックします。
セットアップ操作の結果がページに表示されます。

GUIによる従属ファブリック インターコネクタの設定

従属ファブリック インターコネクタを設定するための下記の手順に従うか、「[Cisco UCS Manager Initial Setup part 2](#)」をご覧ください。

手順

- ステップ 1** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。
ファブリック インターコネクタが起動すると、電源投入時セルフテスト メッセージが表示されます。
- ステップ 2** システムがリリースを取得したら、手順6に進みます。それ以外の場合は次の手順に進みます。
- ステップ 3** コンソール ポートに接続します。
- ステップ 4** インストール方式プロンプトに **gui** と入力します。
- ステップ 5** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。
- ファブリック インターコネクタの管理ポートの Ipv4 アドレス
 - ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの Ipv4 サブネット マスク
 - ファブリック インターコネクタに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレス
- ステップ 6** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに移動します。
- ステップ 7** Cisco UCS Manager GUI 起動ページで [Express Setup] を選択します。
- ステップ 8** [Express Setup] ページで [Initial Setup] を選択し、[Submit] をクリックします。
ファブリック インターコネクタは、第 1 ファブリック インターコネクタの設定情報を検出します。
- ステップ 9** [Cluster and Fabric Setup] 領域で、以下の操作を行います。
- a) [Enable Clustering] オプションを選択します。
 - b) [Fabric Setup] オプションに対して [Fabric B] が選択されていることを確認します。
- ステップ 10** [System Setup] 領域の [Admin Password of Master] フィールドに Admin アカウントのパスワードを入力します。
[Manager Initial Setup] 領域が表示されます。
- ステップ 11** [マネージャー初期セットアップ] で、以下を行います。

フィールド	説明
[Peer FI is IPv4 Cluster enabled. Please Provide Local Fabric Interconnect Mgmt0 IPv4 Address] フィールド	ローカル ファブリック インターコネクトの Mgmt0 インターフェイスの IPv4 アドレスを入力します。

- ステップ 12 [Submit] をクリックします。`
 セットアップ操作の結果がページに表示されます。

WinSCP を使用してインストーラ VM に iso と img ファイルをアップロードするには

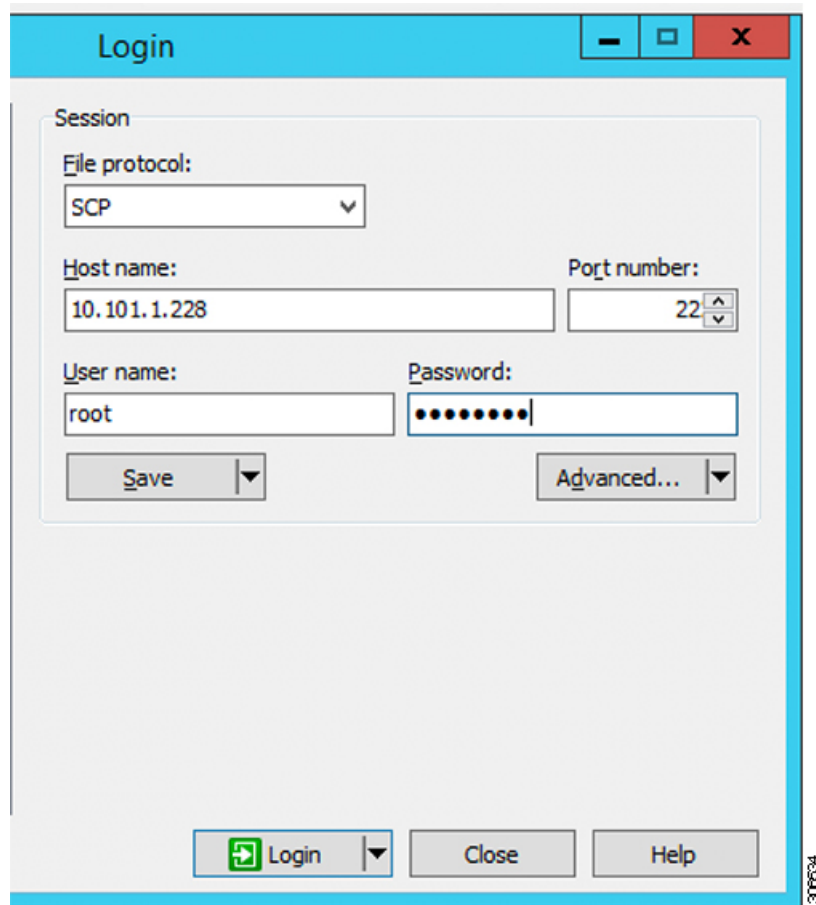
ISO と IMG ファイルのホストとしてインストーラ VM を使用し、Hyper-V をインストールすることを選択します。完了するには、インストーラに Windows ISO および Cisco HyperFlex ドライバイメージをアップロードする必要があります。

このガイドの目的は、WinSCP を使用し、利用可能な SCP クライアントを何でも使用できるようになることです。

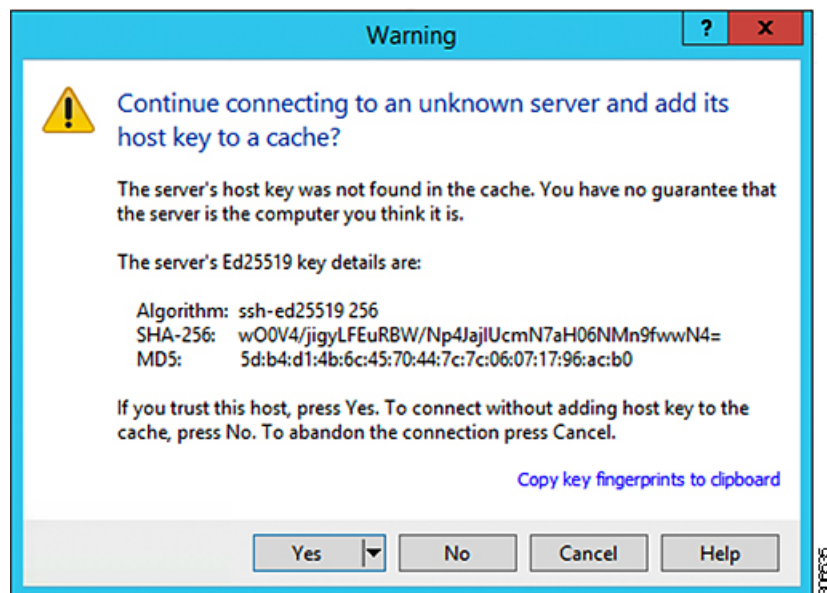
手順

- ステップ 1 Windows の SCP クライアントをダウンロードします。WinSCP (<https://winscp.net/eng/download.php>) である可能性があり、ワークステーションにインストールします。
- ステップ 2 WinSCP からインストーラ VM に接続します。ユーザ名には「**root**」、パスワードには「**Cisco123**」を使用してください。

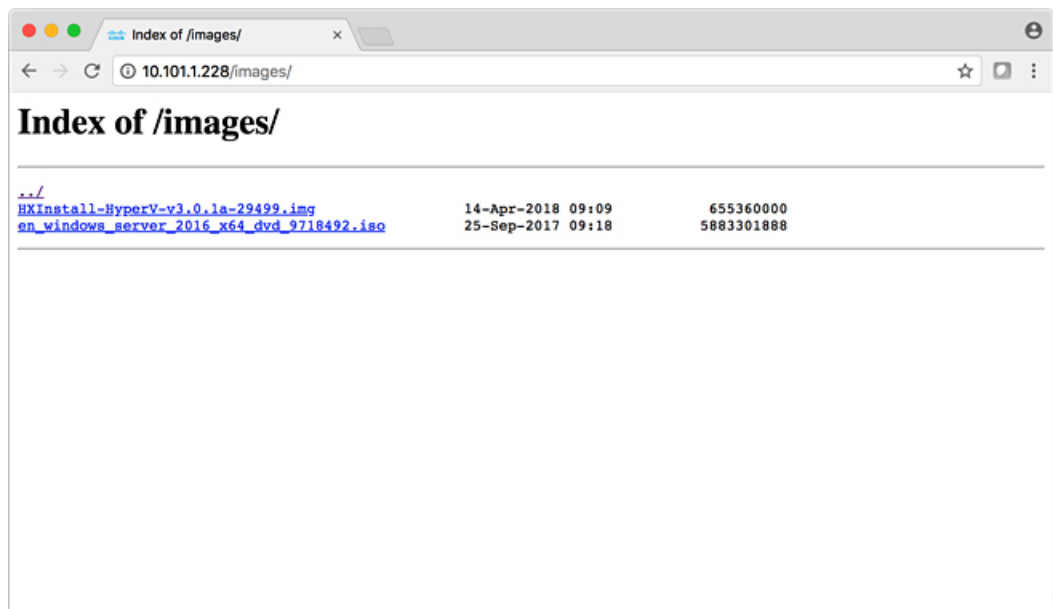
重要 システムは、デフォルトのパスワード [Cisco123] で出荷されますので、インストール中にこれを変更する必要があります。ユーザーが入力した新しいパスワードを指定しない限り、インストールを続行できません。



ステップ3 キーを受け入れ、キャッシュに追加します。



- ステップ 4** 接続されたら、インストーラのフォルダ `/var/www/localhost/images/` を参照します。マシンにあるローカルファイルを参照します。
- ステップ 5** ファイルを転送します。ブラウザの URL にアクセスする場合ファイル名をコピーできます：
`http://<controller_IP>/images/ </controller_IP>`



DNS レコード

ご使用の環境に追加する必要がある DNS レコードについては、以下のリストを参照してください。

<code>Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername</code>
<code>Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername</code>
<code>Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername</code>
<code>Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername</code>
<code>Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername</code>
<code>Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername</code>
<code>Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername</code>

Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "-CNTL" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "-CNTL" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "-CNTL" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername
Add-DnsServerResourceRecordA -Name "-CNTL" -ZoneName "Ciscolab.dk" -AllowUpdateAny -IPv4Address "" -TimeToLive 01:00:00 -CreatePtr -computername

HX サービス アカウント パスワードの更新

パスワードの期限が切れた場合、または自発的に変更された場合は、HX クラスタ内で新しいパスワードを更新する必要があります。Cisco HX サービス アカウントのパスワードを更新するには、次の手順に従います。



- (注) VM とデータストアへのアクセスは、引き続き新しいパスワードなしで動作します。ただしクラスタで、アラート、システム ステータス、サポートバンドル、データストア アクセス レポートに問題が発生します。

始める前に

Cisco HX サービス アカウントのユーザー名が次の形式であることを確認します。

```
<username@domain.com>
```

手順

クラスタ内のいずれかのストレージ コントローラ ノードから `resethypervcred -u` コマンドを実行します。

例：

次に、コマンドの出力例を示します。

```
root@cvmhv1:~# resethypervcred -u
Enter service admin name:administrator@domain.com
Enter service admin passwd:
Enter local admin name:administrator
Enter local admin passwd:
Hyperv creds updated successfully
```

各コントローラ vm に root ユーザとしてログインし、**hxHyperVSvcMgr** の再起動を実行します。

リセットとサービスの再起動が完了したら、HX サービスアカウントユーザとして**HX Connect** にログインし、ログインが機能し、HX Connect にクラスタ情報が表示されていることを確認します。
